

東風見聞録

平成20年10月発行 通巻31号
 イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖恵
 群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢六三七 M 三〇二

SOCCナビゲーション講習会 80名以上が参加

1月17日(土) 飯能市にてSOCCナビゲーション講習会を開催し、SOCC講習会初の80名以上の参加があった。ナビゲーションの必要性が高まっている事が認識できて、とても良い事に思う。

警察庁発表の「平成17年中における山岳遭難の概況」によると、遭難総数1684名のうち態様別にみると、1位「道迷い」594名、2位「滑落」279名、3位「転倒」247名、4位「病気」132名、5位「転落」118名と続き、「道迷い」遭難が最多であると発表している。

また空前のトレイルランブームとなっている昨今、山に入るランナーが増しているが、その一方で、ランニング中に道に迷い、下山路が分からなくなり、更には命の危険にさらされる可能性も否めないナビゲーション技術をなくして山(もつ)と言え、自然)に入ることは、自己責任を持つていえるとは言えないだろう。

そこでSOCCでは、トレイルランナーを対象としたナビゲーションの講習会を開催した。ナビゲーション技術は安全上のものだけではなく、山との関わり方を楽しむ技術でもある。ナビゲーションの講習会は初めてという人が多かったが、少しでも関心を深めてくれた人がいれば嬉しい。今後SOCCではナビゲーション講習会を定期的に開催する予定。



プロジェクトアドベンチャー

2月2日〜4日、3月21日〜22日、田中正人はプロジェクトアドベンチャーのワークショップに参加した。プロジェクトアドベンチャーとは、与えられた課題をグループで挑んで解決していく体験学習で、主に学校、企業などで導入されている。



今回、田中はチームビルディング研修のファシリテーターになるために参加をしたのだが、この役目の大変さを実感すると共に、その奥深さも知った。

「今後も精力的にプロジェクトアドベンチャーの勉強をしていき、チーム活動にも活かしていきたい」

SOCCナビゲーションたっぷり 実践講習会・初級編

3月20日(祝・金)
 SOCCナビゲーションたっぷり実践講習会・初級編を行なった。講師は田中正人、アシスタント講師は田中陽希、アシスタントは武井正幸(SOCC)で、参加者16名。



コンパスワークの基礎の基礎である「設置」の徹底と、ナビゲーション手順をマスターする事を今回の目標とし、参加者に細かく繰り返し説明をした。また、高度計も活用し、その有用性を伝えた。

「地図と、実際の地形を対比しながら、田中師匠の説明が上手く、とても良くわかりヨーキさんのサポートも素晴らしく、非常に充実した1日でした」と参加者から感想を頂いた。

田中陽希 スキーオリエンテリング世界選手権日本代表選手として出場

3月4日〜8日、北海道留寿都村にて世界スキーオリエンテリング選手権大会が開催され、チームイーストウインドの田中陽希が日本代表選手として参戦した。

世界中から強豪が集まる中、初出場の陽希の成績は本人の思うようにはいかなかったが、「力の差を痛感させられた。自分に対して腹が立つ。当初はこの競技は今回限りで決めていたが、この悔しい気持ちをここで終わらせたくない思いが強くなった。」

今回の世界選手権での経験は、僕の中で消えかけていたクロスカントリースキーに対する情熱に火が点いた。2年後のスウェーデンで行なわれる世界選手権では個人団体共に入賞を目指したい」と次回への思いを改めて感じた。



【田中陽希の最終成績】スプリント32位、ロング37位、ミドル38位、リレー8位

全日本スノーシューインググランプリシリーズ 水上高原大会&草津大会

今年で五回目となるタブスカップスノーシューレース。昨年から妙高大会と併せ「全日本スノーシューイング・グランプリシリーズ」とし、大会名も「水上高原大会」に改定。そして今年には新に草津大会を開幕し、三戦でのシリーズとなった。我々タイストウインドプロダクションが主催するのは水上高原大会、草津大会の二戦。

まず2月28日(土)全日本スノーシューイング・グランプリシリーズ水上高原大会を開催。参加者は昨年よりも少なくなりましたが、豪華賞品や天候に恵まれ、大会は盛り上がりつつあった。

そして3月15日(日)は初めての草津大会。前日は吹雪だったが、大会当日は晴天。賞品も盛りだくさんで、良い大会となった。



水上高原大会撮影 柏倉陽介



草津大会撮影 藤巻翔

新トレ生のウェルカムトレーニング

3月23日に今年度のトレーニング生、倉田文裕くんを迎えた。水上到着後、いきなり田中正人と陽希による谷川岳・雪中トレーニングに同行。この日の水上は雪。初っ端から大自然の洗礼を受ける。

雪山登山初体験の田中陽希、倉田文裕は、西黒尾根でのロープのアンザイン(互いにロープで確保)でも緊張感があり、かなり良い経験になったようだ。



馬耳東風

谷川岳エリアを使ったトレイルランニング大会の「ツール・ド・TAMAGAWA」企画の推進を昨年から行なってきた。ところが、いろいろな関係者から反対的な意見を戴きトレイルランニングを取り巻く様々な課題を改めて感じさせてもらった。安全性や自然環境保護の観点であったり、山を走ること自体への抵抗感や、子どもが参加できるクラスがあることについても「山を走るなどということも教えるべきではない」という意見まで戴いた。いろいろな意見について、もっともだと同意することが多いが、残念ながら誤解や思い込みで判断されている意見も少なからずあった。そこで実行委員会では、イベントを開催することだけを目的とするのではなく、トレイルランニングの健全な普及発展のための一翼を担うムーブメントを起こして行こうという方針になった。つまり、今回の企画で浮き彫りになった問題点や課題をホームページに掲載し、それについてトレイルランナーがどういう行動が取れるのか考えて行こうというものである。実際には、谷川連峰の貴重な自然を学び、山岳救助の実態を体験し、一般に批判を受けられないような行動が取れるランナーを増やし、さらにはそれらの問題に貢献できる組織作りにも進展させたいと思っている。自然との関わり方の多様性もあつたほうが良い。お互いに理解し合うことに努め、より多くの人々が自然に関わる機会を増やして行きたい。

田中正人

メディア情報



『タカタッタ Vol.3』
(エイ出版社)

トレイルランニングマガジン「タカタッタ」(エイ出版社)の最新号が3月19日に発売された。この号で田中正人は「トランスジャパンアルプスレース」についての記事を書かせていただいた(P69-73)。



『トレイルラン』
(ランナーズ)

「山をもっと楽しむための走り方」(P4~11)と、「トランスジャパンアルプスレース」(P43~48)に田中正人関連記事。「山をもっと楽しむための走り方」ではトレランを走るコツや練習方法を、「トランスジャパンアルプスレース」では座談会形式で掲載されている。



『Tarzan』
(マガジンハウス)

昨年の11月末~12月初旬に開催されたアドベンチャーレーシング・ワールドシリーズ・ポルトガル大会の様子がTarzan No.528とNo.529で連載されている。

今回の文章は選手として出場した山北道智が担当。肌で感じたレースが伝わってくる。